

目次

●●●● (キャッチフレーズ)
～生物多様性古賀戦略～

(事務局案)

I. 古賀を知る・感じる・考える..... 1

1. 生きものたちの「つながり」と「にぎわい」 1

2. 古賀を知ろう..... 3

3. 「生物多様性」に支えられる私たち..... 5

4. 私たちを支える「生物多様性」を困らせているのは誰? 6

II. 古賀の将来を描く 7

1. 高校生の描く古賀の将来 7

2. 戦略がめざしていく古賀の将来 8

3. 「●●●● (将来像)」を実現するために 8

III. 古賀の戦略を立てる 9

IV. 古賀の戦略を進める 9

I. 古賀を知る・感じる・考える

私たちは、古賀で暮らす生きものしたこと、生きものたちが暮らしている自然のことをどれくらい知っているでしょうか？

そして、私たち人間の暮らしを生きものと自然が支えてくれていること、感じたことがありますか？

古賀のことをもっと知って、もっと好きになって、みんなで生きものや自然を豊かにしていくために、戦略を立てていきます。

この章では、古賀のことを知ること、感じること、考えることで、戦略の考え方を整理していきましょう。

1. 生きものたちの「つながり」と「にぎわい」

私たちの近くには、いろいろな「生きもの」が暮らしています。

昆虫、鳥、ほ乳類、魚、植物・・・私たちはたくさんの種類の生きものに囲まれて生活をしています。

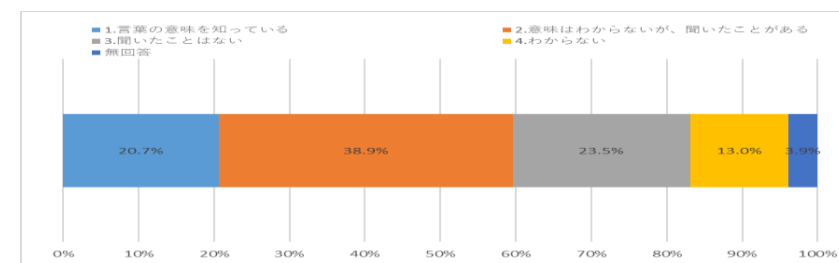
同じ種類の生きものでも個性があって、似たように見えても少しずつ形や色、模様が違ったりします。

また、山や川、海、里など、生きものが暮らしていく、いろんな環境があることで、生きものの種類や個性は豊かになります。



生きものたちは、他の生きもの生命を食べたり、生きものどうして協力し合ったり、必ず他の生き物とつながりあいながら暮らしています。そして、自然の中では、たくさんの種類の生きものがにぎわい、それぞれがつながっています。そのつながりは、とてもバランスがとれた状態になっています。こういう状態を「生物多様性」と言います。

「生物多様性」という言葉、古賀のどれくらいの人知っているの？



【平成29年度市民アンケート結果より】

生きものを守るために、とても大切な言葉ですが、言葉は知っていても、意味までは知らないという人が多いようです。

【コラム①】 もっと知りたい！「生物多様性」

地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接に、間接的に支えあって生きています。生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとされています。

生物多様性が豊かであるためには、3つの多様性が豊かでなければなりません。

(1) 生態系の多様性

生きものには、それぞれの住む場所があります。森林、農地、河川、農業用水路、水辺、ため池、海など、様々な環境と、そこに暮らす生きもの同士のつながりが多様なことをいいます。



(2) 種の多様性

植物、魚、虫、貝、爬虫類……。生きものの種類が多様なことをいいます。「種間の多様性」ともいい、種類の違う生きものたちは、互いに関わりあって生きています。



(3) 遺伝子の多様性

私たち人間一人ひとりに個性があるように、人間以外の生きものにも個性があります。同じ種類の生きものであっても、形や模様・生態が異なり、個性が多様なことをいいます。「種内の多様性」ともいい、この個性によって環境の変化に対応できる可能性も高まります。



【コラム②】 世界や日本でどんなことが取り組まれてきたの？

世界では・・・

生物多様性は人類の生存を支え、人類に様々な恵みをもたらすものです。生物に国境はなく、日本だけで生物多様性を保存しても十分ではありません。世界全体でこの問題に取り組むため、1992年5月に生物多様性条約がつくられました。

193の国と地域が締結している生物多様性条約の最高意思決定機関である締約国会議（COP）はおおむね2年に1回開催されています。2010年に、愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）では、2011年以降の世界目標となる新戦略計画「**愛知目標（戦略計画 2011-2020）**」が設定され、各国が具体的な目標に向かって施策を進めています。

2015年の国連持続可能な開発サミットでは、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、**SDGs（持続可能な開発目標）**が掲げられました。この目標では、私たちの生活と発展の持続性を担保するためには、経済成長・社会的包摂・環境保護の調和が不可欠であると明記され、気候変動への対策強化や海・陸の保全が目標の大きな柱の1つとなっています。



日本では・・・

日本では、1993年に生物多様性条約を締結し、「**生物多様性国家戦略**」の策定、**生物多様性基本法**の制定など、保全のための方針や制度が整えられてきました。2012年には、「**生物多様性国家戦略 2012-2020**」が策定され、**愛知目標**の達成に向けた我が国のロードマップを示すと同時に、平成23年3月に発生した東日本大震災を踏まえた今後の自然共生社会のあり方を示しています。


近年では、生物多様性保全を推進するための法律がいくつか整備されるとともに、その他の様々な法律や指針等においても生物多様性保全への配慮が組み込まれるようになってきています。例えば、2002年に**自然再生推進法**、2004年に**外来生物法**、2010年に**生物多様性地域連携促進法**が制定されています。また、地方公共団体では、地域に応じた、地域らしい取組を進めていくうえで有効なツールの一つである**生物多様性地域戦略**の策定やその実施に向けた取組がすすめられています。

2. 古賀を知ろう

古賀には、東側に犬鳴山地・立花山地という緑豊かな**山々**が広がっています。山から樹園地などに利用されてきた丘へ向かい、水田や畑地などの**さと、まち**を過ぎると、西側には白砂青松の美しい海岸線を有する**海**が広がっています。海に注ぎこむ、大根側水系と中川水系の2つの**河川**は、いろんな場所でいろんな風景を見せてくれます。

季節によって、一緒に見る人によって、見えるものも聞こえるものも変わってきます。どんな生きものがどんな場所で、どんな暮らしをしているのか、そっとのぞいてみませんか。

生きものがにぎわう場所① 古賀海岸



白砂青松の美しい海岸には、多くの植物、魚、カニ、貝などが暮らしています。古賀の人たちが「残したい場所」としても選んでいます。

生きものがにぎわう場所② 千鳥ヶ池



千鳥ヶ池の周回散策路、森林遊歩道などがあり、市民のくつろぎの場として親しまれていますが、実は、たくさんの珍しい生きものが暮らしています。古賀の人たちが「残したい場所」としても選んでいます。

生きものがにぎわう場所⑤ 西山



古賀市の最高峰。標高 645m のこの山は若宮町との市境にあり、犬鳴山系の主峰で、多くの植物や虫が暮らしています。

生きものがにぎわう場所③ 鹿部山



市街地に残る貴重な緑のスペースとして、自然を活かし遊歩道を整備した公園で、多くの市民に親しまれています。古賀の人たちが「残したい場所」としても選んでいます。

生きものがにぎわう場所⑥ 上米多比



ホタルの飛び交う季節には神秘的な光景を見ることができます。古賀市の人たちが「残したい場所」としても選んでいます。

生きものがにぎわう場所④ 田んぼの水路




田んぼには様々な生きものが暮らしています。虫、魚、鳥・・・季節によって様々な生きものを見ることができます。

生きものがにぎわう場所⑧ 古賀ダム周辺



なかなか入ることはできませんが、古賀ダムの周辺には魚や虫、植物など様々な生きものが暮らしています。

生きものがにぎわう場所⑦ 薬王寺水辺公園



農業用溜池の整備と併せて造られた公園で、周囲の山々、木立、野鳥のさえずりの中で緑と水に親しむことができる公園です。

校歌の中にはみんなの親しむ古賀の自然がいっぱい！？

小学校の校歌には、それぞれの校区で親しまれている古賀の自然、身近な自然がたくさん描かれています。私たちは、子どもの頃から地域の人たちが昔から親しんできた自然を、校歌を通じて感じることができるのではないのでしょうか。

【市内全小学校の校歌（抜粋）】

古賀西小学校

みどりの風に 光たつ
花鶴の川よ 松原よ
ああ清らかな 学び舎に
身魂きたえて 湧らつと

花見小学校

風かおる空 あおくすみ
花ふじいろの 校旗ひるがえる
旗のむこうに
潮鳴りひびき 海ひろく

花鶴小学校

鹿部の山の 森かげに
流れは清く 水清く
歴史となって 歌ってる

千鳥小学校

千鳥ヶ池に 影うつる
丘の緑よ 咲く庭よ
潮風かよう 窓開けて
学ぶぼくたち わたしたち

舞の里小学校

はるか玄海 潮騒の
ひびきはつよく あふれて風に
くろがねもちの こずえをこえる
みんな元気だ なかよしだ

古賀東小学校

青雲なびく 犬鳴の
山なみそめて のぼる陽を
仰いでともに 湧らつと

青柳小学校

恵みゆたかな野をめぐる
青柳川とひとすじに
みがき鍛える身と心
夢と希望の花ひらく

小野小学校

村を流れる 清滝の
水より清い 心持で
いざいざ 我が友
人と交わり 世とむつび

古賀の自然や生きものを守るための活動がたくさんあるよ！

古賀の豊かな自然や生きものを守り、取り戻していくために、古賀ではどんなことがされているのでしょうか。ここでは、学校や地域などで取り組まれている活動を少しだけご紹介します。

ホタルを守る活動

「古賀市ほたるの会」が小野小学校のこどもたちと一緒にホタルのことを学び、守っていく活動をしています。

写真

カスミサンショウウオたちを守る活動

「ぐりんぐりん古賀（生物調査と保全グループ）」が薬王寺水辺公園に生息するカスミサンショウウオなどの生きものたちを守る活動をしています。

写真

ツクシオオガヤツリを守る活動

「ぐりんぐりん古賀」が千鳥ヶ池に生息するツクシオオガヤツリを守る活動をしています。「ドリームステージ（中学生職業体験学習）」で職場体験中の中学生も活動に参加しました。

写真

川を守る活動

「ぐりんぐりん古賀（大根川クリーンネットが担当）」では、上流から下流まで、いろいろな生きものが暮らしている川を守っていくために年2回の一斉清掃をしています。

写真

松原を守る活動

「西っ子憩いの松原」や「松原ネット花見」、「中川区防風林を守る会」では、美しい松原を守っていくために清掃活動をしています。

写真

緑を守る活動

「古賀市緑のまちづくりの会」では、豊かなみどりを守っていくために植樹育林活動や園芸福祉活動を行っています。

写真

3. 「生物多様性」に支えられる私たち

私たちの暮らしは、「生物多様性」の恵みは、私たちの暮らしに欠かすことができません。私たち人間は、この恵みによって豊かな暮らしを送ることができるのです。

古賀では、どんな「生物多様性」の恵みを感じることができるでしょう。

生きものがうみだす大気と水と土

植物は生きものたちが生きていくために必要な酸素をつくります。雨が降り、森林が蓄え、栄養を含んだ水は川を流れて海へとつながり、生きものたちを豊かにします。微生物は、地面に落ちた葉や生きものの死骸などを分解し、豊かな土壌を履く組みます。

このように、多くの生きものの営みによって、生命の基盤は支えられています。



薬王寺水辺公園の水辺



興山園の紅葉

暮らしの基礎

私たちは、豊かに実るお米や野菜、肉や卵や乳製品など、いろいろな生きものの命をいただいています。毎日の食卓を彩る野菜などの食物はもちろん、新聞や本などの紙製品や医療品など、多様な生きものが、私たちの衣・食・住を支えています。

また、カワセミのくちばしにヒントを得て設計された500系新幹線など、生きものの遺伝的な情報、機能や形態も私たちの生活の中で利用されています。



筵内の田んぼ



500系新幹線とカワセミ

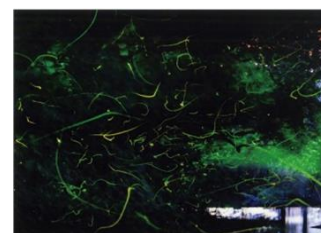
文化の多様性を支える

地域の多様な生態系や生きものは、私たちに精神的な豊かさを与えてくれます。古賀でも見ることのできるホテルはそのひとつ。ホテルが作り出す幻想的な風景は、私たちに精神的な癒しを与えてくれ、美しいという感覚を与えてくれます。

このような精神的な豊かさ、自然や生命への敬愛などは、祭り・踊り・歌・郷土料理など、地域の自然に根付いた文化の多様性を支えています。古賀の楽しみのひとつである放生会は、海の幸、山の幸、五穀豊穰に感謝し、商売繁盛や交通安全を祈願するお祭りです。その方法は地域によってさまざま、それが個性となっています。



古賀の放生会



清滝のホテル

自然に守られる私たちの暮らし

多様な生態系や生き物は私たちの暮らしの安全や安定をもたらしてくれます。

例えば、豊かな森林では、雨はゆっくりと森の土の中にしみこんで、地下水に蓄えられます。そして、少しずつ川に流れていくので、大雨が降ってもすぐに川があふれず、日照りが続いても川の水がすぐになくなりません。また、植物の光合成などが、大気や気候を調整してくるほか、土壌の流出を防ぎ、自然災害から私たちを守ってくれます。



興山園から見える山々

4. 私たちを支える「生物多様性」を困らせているのは誰？

私たち人間の暮らしは昔に比べて、とても便利になっています。しかし、その「私たちの便利な暮らし」は、「生物多様性」に大きな影響を与えています。

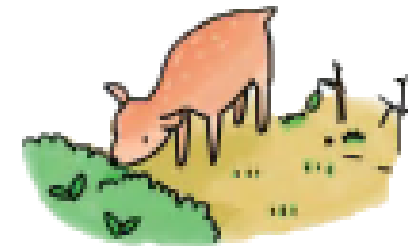
開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少

鑑賞や商業利用のために、生きものの乱獲や過剰な採取がされています。家や工場をつくることなどにより、生きものが暮らす環境が悪化したり、自然が減ってしまうこともあります。人間の活動が、生きものが暮らす環境に与える影響はとても大きいのです。



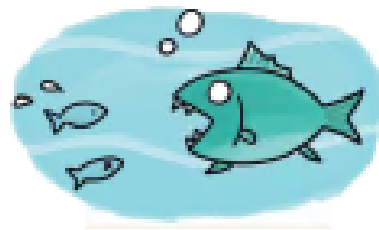
里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下

かつては利用されてきた林などが利用されなくなったことで生きものたちのバランスが崩れ、里地里山の生きものが絶滅の危機にさらされています。例えば、生きものたちのバランスが崩れることで、シカやイノシシなどの数が増え、他の生きものたちに大きな影響を与えることがあります。



外来種の持ち込みなどによる生態系のかく乱

食べるためや、ペットとして飼うために日本に連れてこられた外来種には、逃げたり、野外に放されたりして数が増え、生きものたちに悪い影響を与えるものがあります。在来種を食べてしまったり、在来種の暮らす場所を奪ったり、遺伝的が入り混じったりしてしまいます。また、人間が使用した化学物質の中には生きものへの毒性をもつものがあり、それらが生きものたちに影響を与えています。



地球環境の変化による危機

地球温暖化は国境を越えた大きな課題です。地球温暖化などにより、気温が上がり続けると、大雨や海面・海面温度が上昇するなど、生きものが暮らす環境は大きく変わってきます。また、気温の上昇は、植物が決まった季節に芽を出す、冬眠している動物が春に目を覚ますなど、温度の影響を受けている生きものにも影響を与えます。



Ⅱ. 古賀の将来を描く

みんなで生きものや自然を豊かにしていくためには、
どのような将来を描き、何をしていけばいいのでしょうか。

まずは、みんなでどんな古賀をめざすのかを
イメージしておくことが大切です。

この章では、「Ⅰ. 古賀を知る・感じる・考える」をもとに、
生きものや自然が豊かな「古賀の将来像」を考えます。

1. 高校生の描く古賀の将来

戦略を検討していく過程で、将来を担っていく古賀の高校生代表として、古賀竟成館高等学校の生徒 11 人が
3つのグループに分かれて、古賀の生物多様性のことを学び考えました。

彼らが描いた「古賀の将来」とは、どのようなものなのでしょう。

Natural City Koga～豊かな自然と共に育つ町～

【私たちの思い】

- 生きものが住みやすい環境にする
- 人だけでなく豊かな自然と生きられるようにする
- 町を発展させながらも貴重な生きもの多様性を守る

写真

変わらない町が待っている with バラタナゴ

写真

【私たちの思い】

- 昔住んでいた人が戻ってきたときに変わっていないと思えるようなまち
- 古賀市に生息する生物について多くの人に知ってもらい、
生物がすみやすいまち

共存～自然と人間～ 「自然と遊び 自然と過ごし 自然と生きていく」

【私たちの思い】

- どんな生物でも生活しやすい市
- きれいな自然と人間社会がつりあっている市
- 自然との調和がとれている市
- 自然で遊びたい

【キーワード】自然・市・共存

写真

2. 戦略がめざしていく古賀の将来

高校生の描く「古賀の将来」、そこに込められた思いからも伝わるように、ただ生きものの住める環境を守らなければいけないのではなく、古賀が元気になりながら、私たち人間と生きものや自然とが共生し、生きものを支え、生きものに支えられるような社会をめざしていかなければなりません。

この戦略では、2024年までに、古賀市全域でめざす「古賀の将来」を、「●●●●（将来像）」とし、様々な取組をすすめていきます。

候補①

第2次古賀市環境基本計画では、古賀市の環境を貴重な財産として未来へ引き継いでいくことをめざして「未来に引き継ごう 人が自然と愉しく共生する環のまち 古賀」を将来像に掲げている。人と自然が共生し、共生の「環」、共働の「環」、循環の「環」が広がる古賀になるイメージ。

将来像	人と自然が共に生きる 環のまち 古賀
キャッチフレーズ	自然と織りなす「環」のまちへ

候補②

人と生きものが共に生き、共に育っていくことで、豊かな自然もありながら、活気にあふれた古賀になるイメージ。

将来像	人と生きものが 共に育つまち
キャッチフレーズ	人と生きものが共に育つまちをめざして

候補③

人と人、人と生きものの環が広がることにより、生物多様性がより豊かに、また、持続可能となるイメージ。

将来像	古賀の環が生み出す 人と生ものつながり
キャッチフレーズ	生きものと共に。つながる未来へ・・・

3. 「●●●●（将来像）」を実現するために

この戦略でめざす将来像は今から15年後の2024年。「生物多様性」の理想像である「生きものがバランスよく安定し、それが持続可能となる」社会の実現を考えると、とても長い時間が必要で、15年間という期間は短く感じるかもしれません。

しかし、15年後は今の高校生たちが大人になり、地域社会を担っていく年齢になる頃。きっと、私たちが暮らす古賀も今とは変化しているのではないのでしょうか。

そのころ、確実に次世代にバトンタッチし、彼らのイメージする「古賀の将来」をめざしてもらいたい。また、そのバトンは、さらに次の世代へ。

バトンを確実につなぐため、私たちは責任を持って、次のアクションを起こします。

Action 1. 生物多様性を知る・ふれあう

古賀に関わるみんなに、自然の豊かさや脆さを知ってもらいます。

Action 2. 行動に移す・守る

多様な生きものが住みやすい環境を増やします。

Action 3. 生物多様性を活かす

生物多様性から受ける恵みをいつまでも活かせるようにします。

Action 4. つなげる

生きものと自然、人と自然、人と人、人と地域など、様々なつながりを深めます。

Ⅲ. 古賀の戦略を立てる

★平成30年10月ごろ検討予定

高校生を対象としたワークショップを通じて決定した古賀市の将来像・実現のための行動目標をもとに、庁内の関係部署やぐりんぐりん古賀へのヒアリング等を行い、「**総合的かつ計画的に講ずるべき施策**」を検討し、記載する。

Ⅳ. 古賀の戦略を進める

★平成30年10月ごろ検討予定

行政・市民・事業者・研究機関等の様々な主体の役割、多様な主体により戦略の推進をしていくための体制、戦略の進行管理をしていくことを記載する。